

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 高知市立一ツ橋小学校		校長 川村 靖	教員数 22	児童生徒数 学級数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計			
					児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
					70 (2)	3	65 (2)	3	56 (2)	2	62 (2)	2	48	2	55	2	364 (8)	16		
研究テーマ		「道徳性を育み、よりよく生きようとする力を育てる道徳授業の創造」 ～かかわり合い、見つめ直し、行動につながる道徳の授業づくりを通して～																		
年度当初の学校の状況		到達目標				中間検証(下半期に向けての改善事項)						年度末(到達目標達成状況)								
道徳性に関する現状		肯定%		道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上 ① 道徳の学習に対する意識を90%以上にする。 ② 「自分のことについてよく考えている」を90%以上にする。 ③ 「家の人と道徳の話をしたり、『家庭で取り組む 高知の道徳』を読んだりしている」を75%にする。 ④ 「自分には、よいところがあると思う」を90%以上にする。 ⑤ 「将来の夢や目標をもっている」を95%以上にする。 ⑥ 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」を95%以上にする。 ⑦ 「学校のきまり(規則)を守っている」を95%以上にする。 ⑧ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」を90%以上にする。				・学校長の方針の下、道徳推進教師を中心として全教員が指導力を発揮できる体制を整え、取り組んでいる。 ・夏季休業中に行った校内研修や、研修会に参加して学んだ知見を教材研究に生かし、道徳科のねらいに即した授業づくりに繋げていく。 ・今後も公開授業やブロック研を行ったり、講師を招聘したりして道徳の授業力を高めるとともに、児童の学習状況の記録を児童側・教師側が残していくようにする。 ・道徳の実践を通じて、新たに見出された児童の道徳性の状況や道徳科の授業を行うにあたっての課題を共有し、取り組みの改善を図る。						① 79.9%		⑤2.7%向上 したが、到達目標は達成できなかった。 ⑤以外の項目で数値が下がった。 このことから、概ね、年度当初に立てた到達目標を達成することができなかった。 年度末の調査結果を分析し、次年度の取組にいかしていく。				
①道徳の勉強は、すきだ		82.5%												② 83.3%						
②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている		88.9%												③ 27.1%						
③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む高知の道徳」を読んだりしている		42.5%												④ 74.1%						
④自分には、よいところがあると思う		79.7%												⑤ 89.0%						
⑤将来の夢や目標をもっている		86.3%												⑥ 89.4%						
⑥人が困っているときは、進んで助けている		89.8%												⑦ 88.7%						
⑦学校のきまりを守っている。		91.6%												⑧ 83.6%						
⑧地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある		88.3%																		
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)										指標達成状況の分析								
取組項目		取組の評価指標				5月～8月		中間評価		9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)						達成状況		年度末評価		
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実		①校内で毎月1回以上、研究部会をもち、進捗管理を行う。 ②各学年の年間指導計画、別業に基づく取り組みの検証を行う。 ③道徳教育推進教師や管理職が、全学年の道徳科の授業を参観する。				①道徳教育の全体計画(別業)と、各学年の道徳科の年間指導計画の見直し、改善をする。 ②管理職、道徳推進教員が全ての道徳科の授業を参観できる体制の構築をする。 ③道徳科の趣旨を踏まえた授業の研修を行うため、講師の招聘を計画する。 ④8月5日、小中学校連携の取り組みとして道徳研修を行う。		B		①道徳教育の全体計画(別業)と、各学年の道徳科の年間指導計画に基づく授業実践を行う。 ②管理職、道徳推進教員による道徳科の授業の参観・指導・評価を行う。 ③意識調査の検証を行い、取り組みの改善を行う。						・道徳研究部会を月1回開くことはできなかったが、職協研や夏季休業中に研修・分析を行い、授業に生かすことができた。 ・3回講師を招聘し授業の実際や教材研究の仕方などの研修を行うことができた。 ・管理職、推進教師が授業参観を行い、共に学ぶことができた。		B		
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業実践		①道徳授業チェック【教師用】、【児童用】を3以上にする。 ②公開授業研において案内を行い、授業についての意見をもらう。				①ブロックで授業研究を2回以上行い、指導方法や評価について話し合う。年度末(2月)には全教職員で、成果と課題を共有する研修を行う。 ②学習指導案、教具、板書写真、ワークシートなどの整理・保管をする。 ③道徳授業チェックシート(全教師、全児童)の結果および、個人内評価に係る協議、授業改善に係る検討などを行う。 ④他校(道徳科指定校など)の公開授業に参加し校内報告会を行う。		B		①1学期に授業を行わなかった学年が、ブロックで授業研究を行い、指導方法や評価について話し合う。 ②10月に中間発表会を行い、講師を招聘しての授業づくりに係る研修を行う。 ③学習指導案、教具、板書写真(ワークシート)などの整理保管をする。 ④道徳授業チェックシート(全教師、全児童)の結果および、個人内評価に係る協議、授業改善に係る検討などを行う。 ⑤他校(道徳科拠点校など)の公開授業に参加し、校内報告会を行う。						・道徳授業チェックを行い、分析した。 教師 平均2.9⇒3.0 児童 平均3.5⇒3.5 ・全校研2回、ブロック研7回行い、年度末には校内報告会を行い、ブロック研を行った教師の成果と課題を報告し共有した。		B		
道徳科の趣旨を踏まえた評価の在り方に関する研究及び組織的・計画的な評価の推進		①講師を招聘し評価の研修を行い、評価についての共通認識を深める。 ②年度末の個人懇談で学習状況や、道徳性に係る成長の様子を保護者に伝える。				①講師を招聘する計画を立てる。 ②道徳ノートやワークシート、発言の記録を活用したり、行動の観察を行ったりして、学習状況や道徳性を把握し、学年で評価について検討する。 ③校内で評価の仕方を共有する。		B		①評価についての校内研修を行い、評価の仕方を再確認する。 ②道徳ノートやワークシート、発言の記録を活用したり、行動の観察を行ったりして、学習状況や道徳性を把握し、学年で評価について検討する。						・年度初めに、昨年・一昨年前の講師の先生方にお習いしたことを校内研修で伝達し、年間を通して、学校として組織的な評価の研究に取り組むことができた。 ・講師招聘は、調整がつかず、叶わなかった。		B		
家庭・地域と連携した道徳教育の実践		①全学年道徳科の授業公開による参観日を実施する。 ②学校便りや道徳便りで本校の取り組みなどの発信をする。				①道徳参観日(9月)に道徳の公開授業を全学年で行う。 ②地域の方や保護者と児童と一緒に学習する参加型の道徳科授業や、地域の方に感謝する気持ちを育てる道徳科の授業を行う。 ③道徳便りで各学年の道徳の授業の様子や「高知の道徳」の紹介をする。		B		①地域の方や保護者と児童と一緒に学習する参加型の道徳科授業や、地域の方に感謝する気持ちを育てる道徳科の授業を行う。 ②道徳便りで各学年の道徳の授業の様子や「高知の道徳」の紹介をする。						・道徳参観日に全クラスが公開授業を行い、懇談には、高知の道徳を用いて各家庭の様子を話し合うことができた。		B		